

令和6年度 東京都立志村学園 学校運営連絡協議会実施報告書 (就業技術科、肢体不自由教育部門)

1 東京都立志村学園 学校運営連絡協議会の構成について

(1) 協議委員

創価大学准教授、NPO法人地域ケアサポート研究所、
都立特別支援学校校長、板橋区肢体不自由児者父母の会副会長、
就業技術科卒業生保護者代表、肢体不自由教育部門PTA会長、就業技術科フォーSの会会長 計7名

(2) 評価委員

協議委員より4名選任

(3) 内部委員の構成

校長、副校長(3人)、経営企画室長、教務等を担当する主幹教諭 計9名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)開催日時、内容等

○第1回 令和6年6月25日(火)

学校長挨拶、委員紹介、本年度の学校経営計画について
本年度の学校運営連絡協議会の運営について、今年度の取組について(意見交換)

○第2回 令和6年10月22日(火)

学校長挨拶、学校評価の進め方(評価項目・評価方法・日程等)について
授業参観概要説明、授業参観について(意見交換)

○第3回 令和7年2月19日(水)

学校長挨拶、学校経営計画進捗状況報告、学校評価結果報告(意見交換)
学校評価に関する検討、提言について

(2) 評価委員会

○第1回 令和6年6月25日(火)

副校長挨拶、今年度の評価の進め方について(提案及び検討)

○第2回 令和6年10月22日(火)

副校長挨拶、今年度の評価の進め方について、評価項目と基本方針の再確認
今後の取組計画について、事務連絡

○第3回 令和7年2月19日(水)

今年度の評価結果の分析について、校長への提言、職員会議での全教職員に対しての提言内容の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

1 学習指導 2 学習環境 3 心理的ケア(就業技術科) / 医療的ケア(肢体不自由教育部門)

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

【 就業技術科 】

対象	対象人数	回収数	回収率
生徒	233人	211人	90.6%
保護者	229人	205人	89.5%
教職員	68人	68人	100%

【 肢体不自由教育部門 】

対象	対象人数	回収数	回収率
児童・生徒	32人	29人	90.6%
保護者	100人	86人	93.0%
教職員	88人	88人	100%

※1) 準ずる教育課程、知的障害を併せ有する
児童・生徒の教育課程の児童・生徒を対象

(3) 評価実施方法

学校評価アンケート回答方法は、Office365 の Forms を用いたアンケート及び紙媒体、マチコミメールを活用した。保護者においては、回答前に各質問項目の説明資料を閲覧できるようにした。また、回答を記名式にし、児童・生徒・保護者・教職員（行政系含む）に実施した。3つの観点ごとに自由記述欄を設け、選択項目だけでは図りにくい意見をいただけるようにした。

(4) 分析方法

令和5年度に引き続き、学校評価を大きく3つの項目ごとに分析した。それぞれの質問項目については、4～0の回答（4：そう思う、3：どちらかといえばそう思う、2：どちらかといえばそう思わない、1：そう思わない、0：わからない）のうち4～1の回答数を分母として各回答割合（%）を示す。また、令和5年度との比較も行った。

(5) 評価結果（単位：%）（上段：R6／下段：R5） 肯定的回答率 90%未満 Q

1 学習指導

【 就業技術科 】

Q1 学校は、人権（生徒指導、個人情報管理等）に配慮した教育を行っている。	
生徒	
保護者	
教職員等	
Q2 個別指導計画に基づいて、生徒一人一人の課題に応じた目標を示し、評価している。	
生徒	
保護者	
教職員等	
Q3 様々な専門性をもつ外部人材等から授業改善の助言を受け、質の高い授業づくりに活かしている。	
生徒	
保護者	
教職員等	
Q4 Teams を通じた様々な学習課題の配信、ICT機器を活用した教育を適切に行っている。	
生徒	

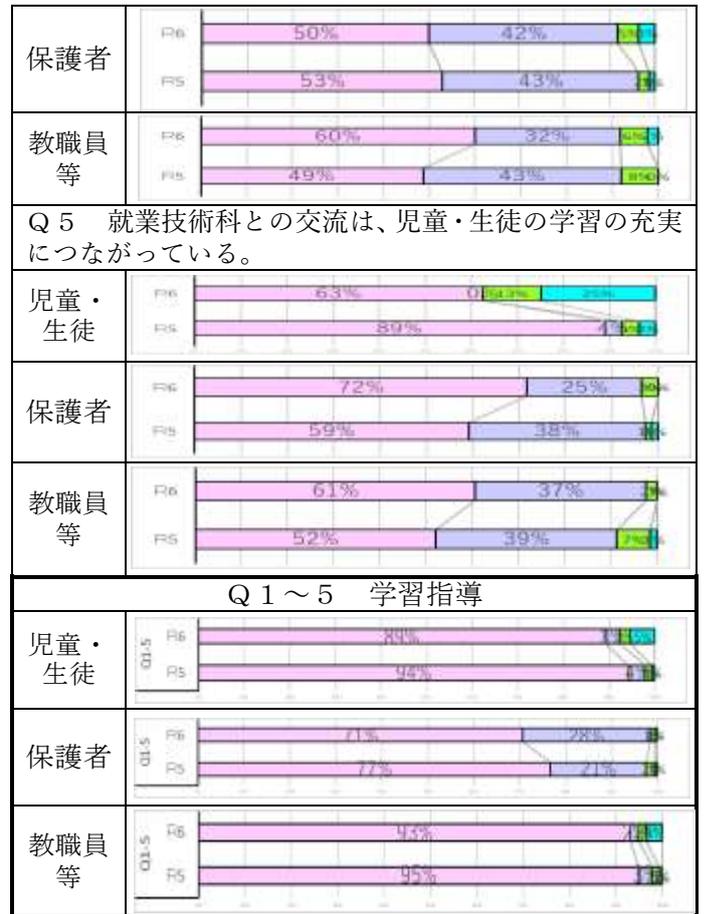
【 肢体不自由教育部門 】

Q1 学校は、人権（生徒指導、個人情報管理等）に配慮した教育を行っている。	
児童・生徒	
保護者	
教職員等	
Q2 個別指導計画に基づいて、児童・生徒一人一人の課題に応じた目標を示し、評価している。	
児童・生徒	
保護者	
教職員等	
Q3 外部専門家（理学療法士、作業療法士、視機能訓練士、言語聴覚士、音楽療法士、学習アドバイザー）から授業改善の助言を受け、質の高い授業づくりに活かしている。	
児童・生徒	
保護者	
教職員等	
Q4 小学部・中学部はGIGA 端末、高等部は一人1台端末を用いた授業づくりを進め、ICT機器を活用した教育を適切に行っている。	
児童・生徒	

【 就業技術科 】

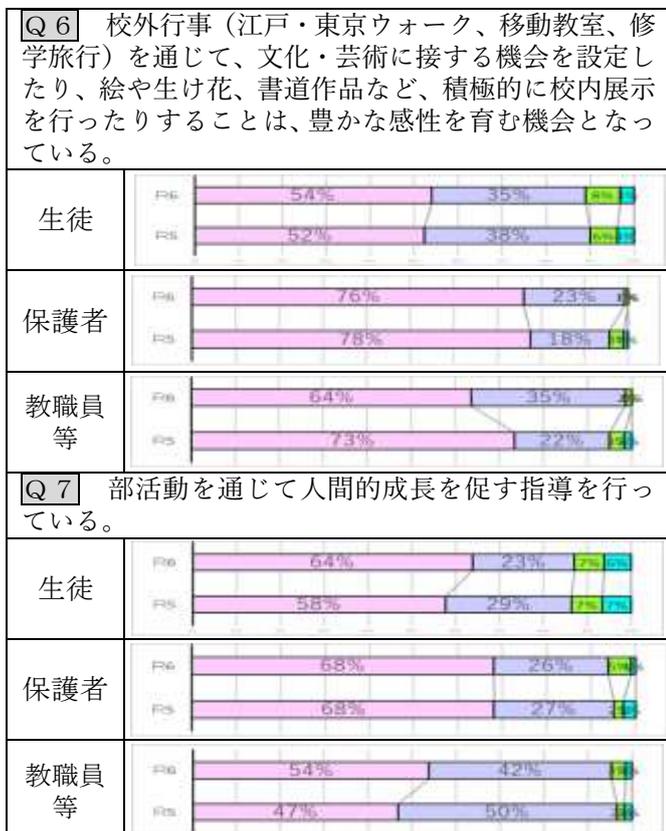


【 肢体不自由教育部門 】

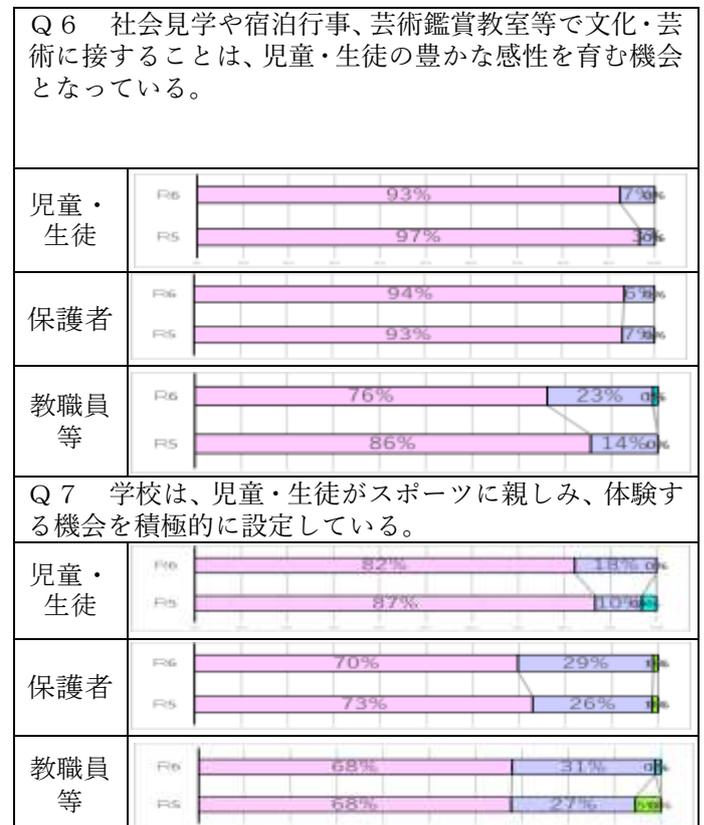


2 学習環境

【 就業技術科 】



【 肢体不自由教育部門 】



【 就業技術科 】

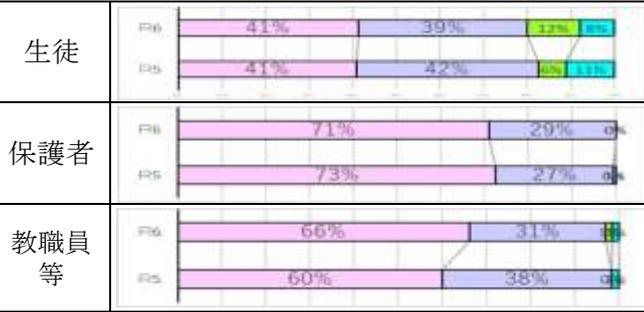
<p>Q 8 学校は、基本的な感染症対策と情報発信を適切に行っている。</p>	
生徒	
保護者	
教職員等	
<p>Q 9 学校は、4S（整理・整頓・清潔・清掃）を徹底し、生徒が学習しやすい環境を整えている。</p>	
生徒	
保護者	
教職員等	
<p>Q10 教職員の言動、ふるまい、服装などは、生徒のロールモデルになっている。</p>	
生徒	
保護者	
教職員等	
<p>Q11 月1回の避難訓練を通し、大規模災害を想定した防災教育を行うことで、生徒の防災意識が高まっている。</p>	
生徒	
保護者	
教職員等	
<p>Q12 企業就労に向けた相談や進路指導は、保護者、企業、ハローワーク等との適切な連携のもと、実施されている。</p>	
生徒	
保護者	
教職員等	

【 肢体不自由教育部門 】

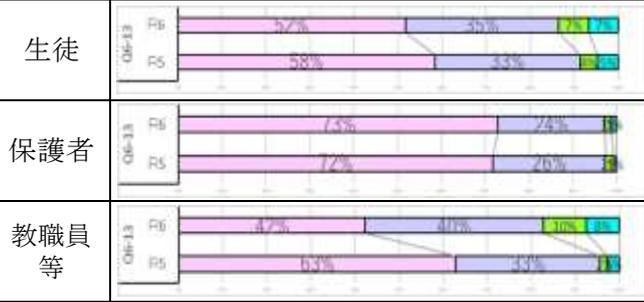
<p>Q 8 学校は、基本的な感染症対策と情報発信を適切に行っている。</p>	
児童・生徒	
保護者	
教職員等	
<p>Q 9 学校は、4S（整理・整頓・清潔・清掃）を徹底し、児童・生徒が学習しやすい環境を整えている。</p>	
児童・生徒	
保護者	
教職員等	
<p>Q10 教職員の言動、ふるまい、服装などは、児童・生徒のロールモデルになっている。</p>	
児童・生徒	
保護者	
教職員等	
<p>Q11 月1回の避難訓練など、大規模災害を想定した防災教育を行うことで、児童・生徒の防災意識が高まっている。</p>	
児童・生徒	
保護者	
教職員等	
<p>Q12 進路説明会や進路相談は、保護者や行政、進路先等との適切な連携のもと、実施されている。</p>	
児童・生徒	
保護者	
教職員等	

【 就業技術科 】

Q13 レストランの営業、介護施設等でのボランティア活動は、学校の地域貢献につながっている。

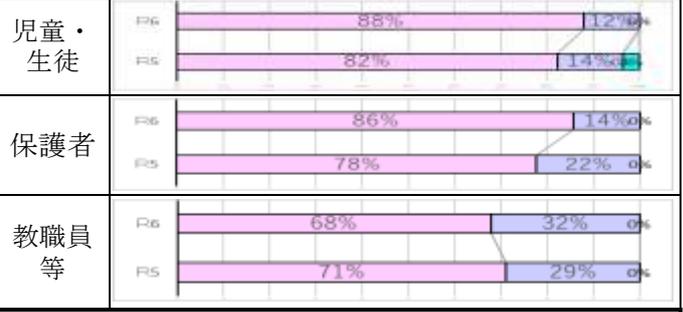


Q6~13 学習環境

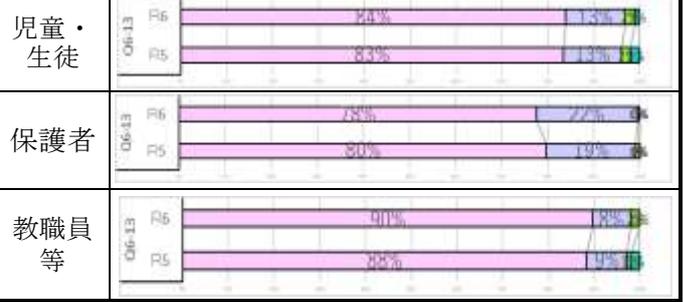


【 肢体不自由教育部門 】

Q13 学校は、個別面談や保護者会を通して、保護者に信頼される学校づくりに努めている。



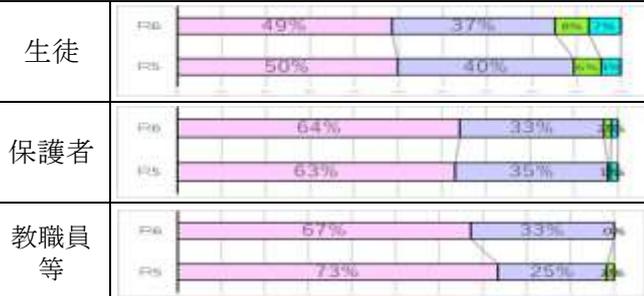
Q 6 ~13 学習環境



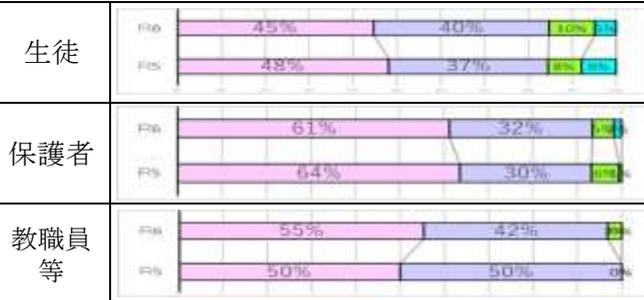
3 心理的ケア(就業技術科)/ 医療的ケア(肢体不自由教育部門)

【 就業技術科 】

Q14 学校は、スクールカウンセラー、心理士等を活用し、相談機能の充実を図っている。



Q15 学校は、いじめ防止、自殺防止に向けた指導・支援とともに、生徒の悩みや心配事の相談、SOSの出し方などの指導を適切に行っている。

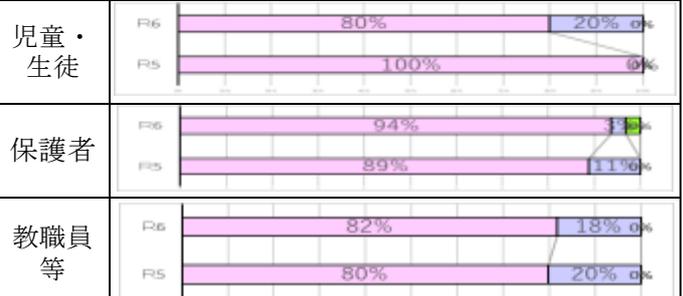


Q14~15 心理的ケア

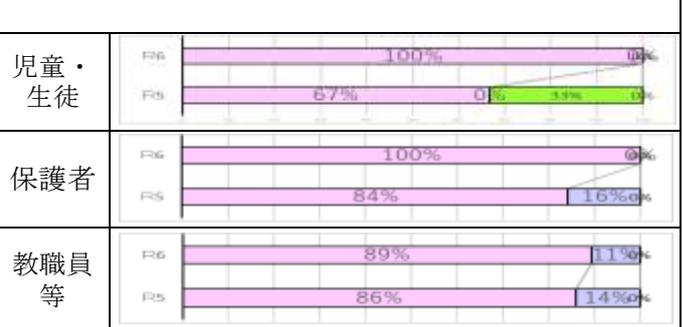


【 肢体不自由教育部門 】

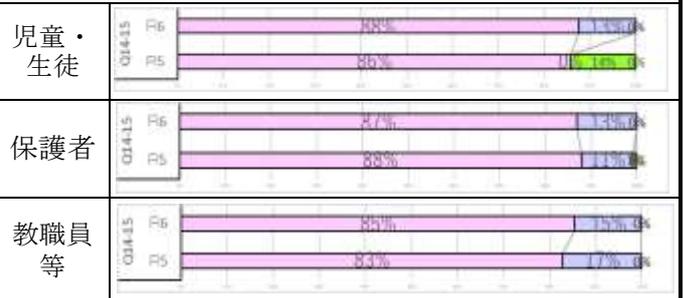
Q14 教職員と看護師が連携し、医療的ケアを安全かつ適切に実施している。



Q15 学校は、医療的ケア専用通学車両を、安全に運行している。



Q14~15 医療的ケア



令和6年度 学校運営連絡協議会 提言

令和6年度は、これまでの教育活動をふまえ、新たな教育活動の在り方を追求していく年となりました。両部門ともに内外部の交流や活動に制限がなされず、ICTの活用など多様な学習の機会を得ています。これからも新たな教育活動を展開していくことから、今年度の学校評価は、昨年度までのものと比較をした上で受け止めていかななくてはなりません。

今年度は、昨年度に比べ、両部門ともに保護者のアンケート回収率がさらに向上し、回答者の学校経営への参画意識を定着させることができたと言えます。学校評価の実施方法や回答期間の見直し等を工夫し、より多くの意見を取り入れられるように改善したことは、日頃、志村学園が学校運営や教育活動について、常に向上意欲を成果としてあげているものと感じております。

今回の学校評価の結果をふまえ、次年度に向けて以下のとおり提言します。

1. 「学習指導」に関しては、いずれの項目においても、保護者、教職員ともに概ね肯定的な評価がなされてきました。就業技術科では、これまでに取り組んできたICT機器の活用を研鑽し、さらに教育活動で生かしてください。肢体不自由教育部門では、外部専門家の専門性を活かした研修等を通じて、児童・生徒の実態に合わせた授業づくりを引き続き進めてください。
2. 両部門ともに共通していたのは、「部門間の交流」についてです。今年度に交流を実施した児童・生徒が学習の充実を実感していることは、学年や学部が上がるにつれて肯定的な回答率が増加していることから読み取れます。肢体不自由教育部門と知的障害部門が併置されている学校の良さを生かし、児童・生徒の実態や段階に応じた交流の機会を設けるとともに、共同学習的な側面をもった活動を推進、計画し進めてください。
3. 「学習環境」に関しては、ロールモデルの項目において、両部門共に教職員自身の課題意識が見受けられます。児童・生徒たちの身近な大人のモデルとして、人権尊重教育推進校2年目を生かし、引き続き教職員自身の課題意識や学び続ける姿勢を児童・生徒に示せるよう指導を展開してください。
4. 「心理的ケア」（就業技術科）に関しては、昨今の心理的課題をもつ生徒の増加を踏まえ、スクールカウンセラーや心理士等を上手に活用しながら特別支援学校としての専門性を高め、先生方の相談力の高まりとともに生徒の課題解決力を高めていけるような指導につなげてください。
5. 「医療的ケア」（肢体不自由教育部門）に関しては、いずれの項目も高く評価されています。今後とも都のガイドラインに則り、保護者とのより一層緊密な連携、協力のもと、校内では多職種との連携をさらに強め、安心・安全な医療的ケアの推進をお願いします。

令和7年度、志村学園が一丸となって児童・生徒への教育の充実を進めていかれることを期待しております。